

外国人住民の生活実態について

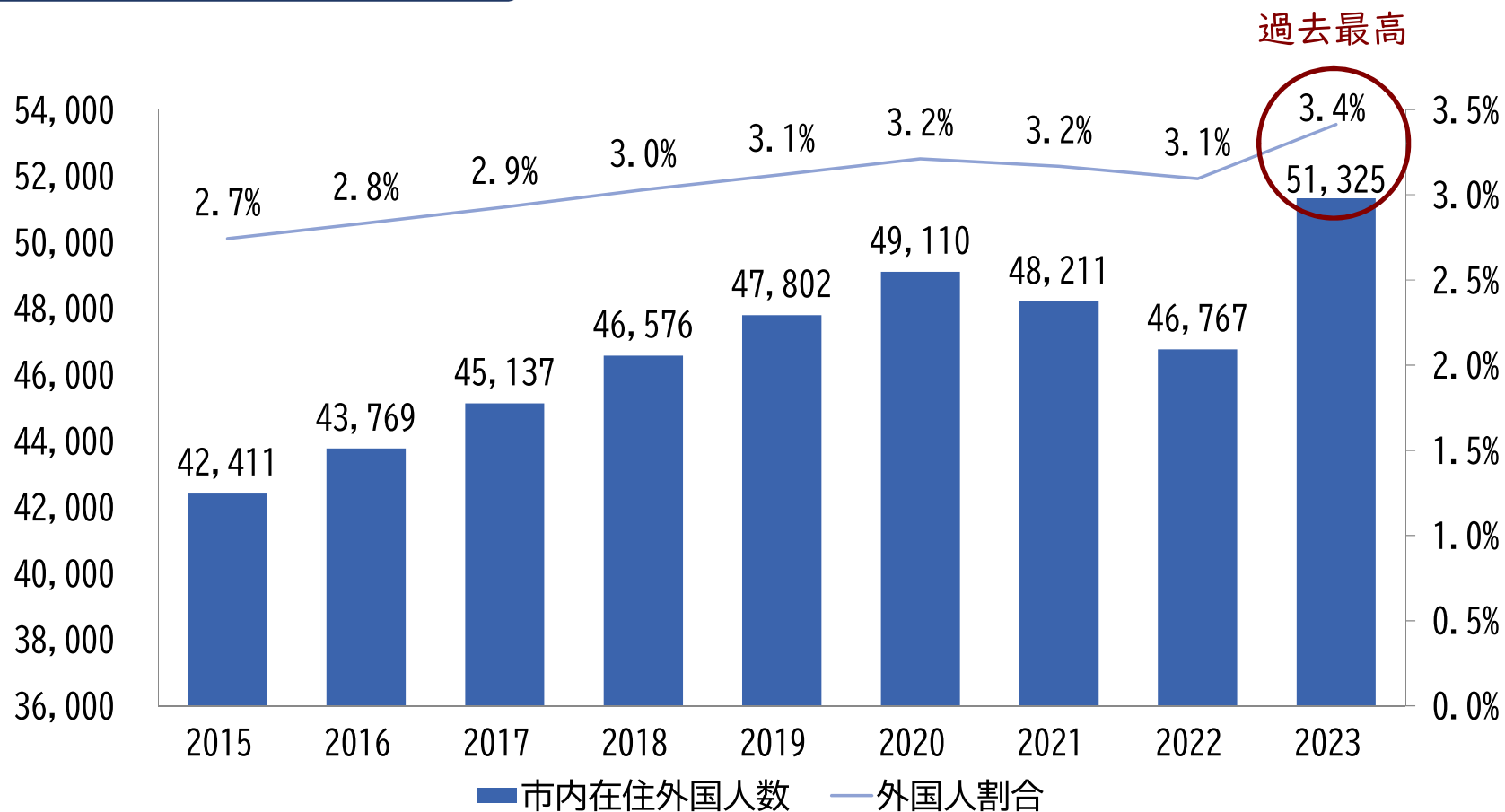


神戸市地域協働局地域協働課



1. 神戸市における在住外国人の動向

神戸市の外国人数の推移



1. 神戸市における在住外国人の動向

在留外国人増加の背景

○ 人口減少・少子高齢化に伴う深刻な人手不足

- （国の対応） ・ 技能実習制度の見直し
- ・ 特定技能制度の拡充

○ 激化するグローバルな人材獲得競争

- （国の対応） ・ 留学生受入目標数の引き上げ

※ 受入目標：2033年までに40万人（2019年:31.8万人）

➡ 今後ますます増加していく見込み

2. 外国人及び関連機関へのヒアリング調査

外国人・関連機関へのヒアリング調査の概要

○ 趣旨

- ・神戸市内の在住外国人の生活状況の把握を進めるとともに、彼らが地域で生活していく際に、外国人住民・地域住民の双方が抱えている課題を明らかにし、その解消策の検討・実施に活かしていく。

○ ヒアリング対象（外国人105名、関連機関98団体）

- ・在住外国人
- ・在住外国人の受入機関（外国人雇用企業・監理団体・日本語学校・専門学校等）
- ・在住外国人と関わりの深い施設・団体（外国人コミュニティ・支援団体・料理店・宗教施設等）
- ・地域の住民・団体
- ・官公庁等
- ・庁内関連部署

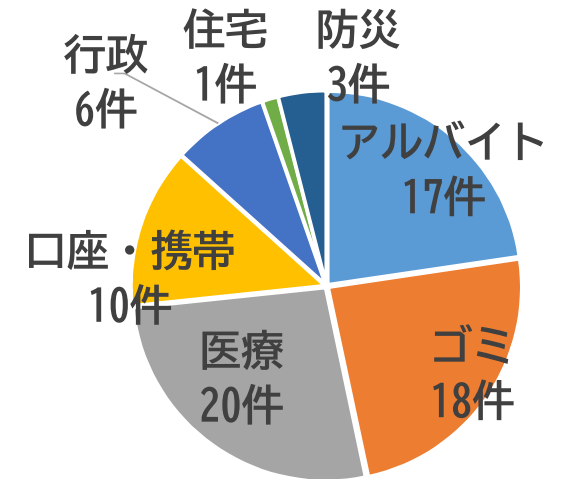
○ ヒアリング内容

- ・外国人：生活状況、コミュニティ状況、生活に係る相談先/情報源、困りごと、支援制度の認知度等
- ・地域：外国人住民の増加に伴う課題、外国人住民との交流状況等

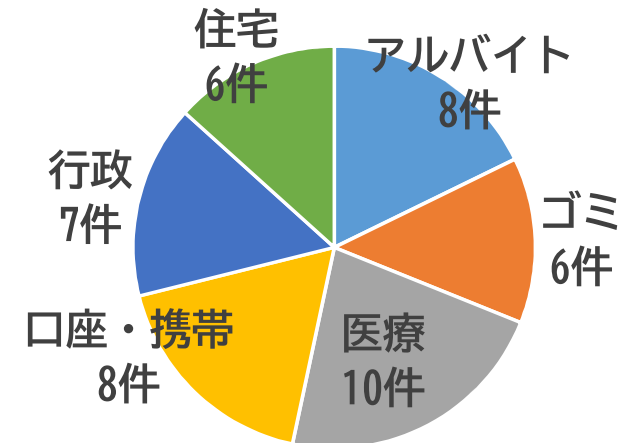
2. 外国人及び関連機関へのヒアリング調査

留学生の生活上の課題（概要）

- ・当初、日本語能力の問題から、アルバイト探しやごみ分別ルールが難しい。
- ・日本語能力が向上しても、医療機関の受診は難しい。
- ・口座開設・携帯契約は制度上の制約から、学校等の支援が不可欠
- ・防災に関しては、課題としてあがらないことが問題
- ・住宅確保に関しては、当初入居できる寮の存在があり、その後の転居時に課題となる。
- ・KICC(神戸国際コミュニティセンター)等の認知度は低い。
(給付や食糧支援は口コミで広がる。)
- ・時間に余裕のない学生が多い。



<外国人回答(60名)>

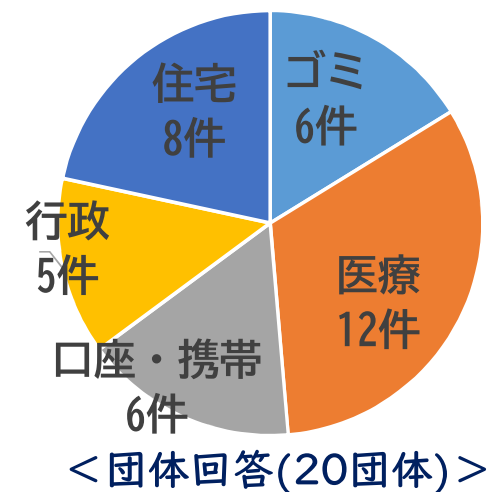
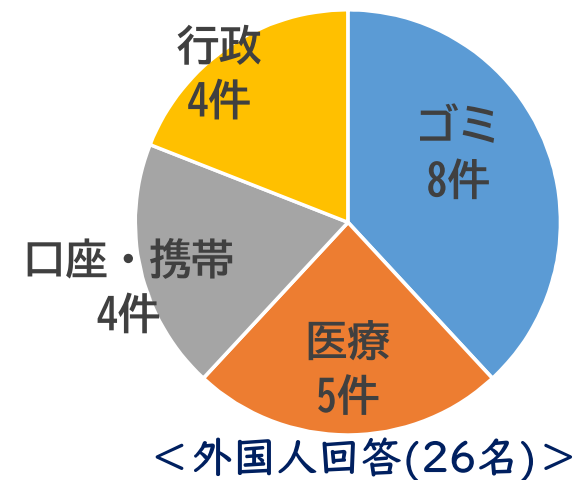


<団体回答(20団体)>

2. 外国人及び関連機関へのヒアリング調査

技能実習・特定技能の生活上の課題（概要）

- ・特に技能実習生は、監理団体が手厚くフォローしており、基本的に「困りごとはない」という人が多い。
- ・特定技能も、受入企業等による一定のサポートがあるものの、住宅確保や医療受診、地域差のあるごみ出しルール等で課題
- ・日本語を継続的に勉強している人が多い。
特に、業務に関する専門用語が難しい。
- ・防災に関しては、課題としてあがらないことが問題
- ・住宅確保に関して、技能実習は受入企業が住居を用意するが、特定技能は受入企業ごとに異なる。
- ・KICC(神戸国際コミュニティセンター)等の認知度は低い。



2. 外国人及び関連機関へのヒアリング調査

(参考) その他の在留資格で滞在する外国人

基本的な生活・労働状況や情報収集能力などは日本人と相違ない一方で、
実家や幼馴染などが近隣にいない分、日本人に比べると交友関係や情報源は狭くなっている傾向

お困りごと

- ごみ
 - ・資源ごみの出し方が分からない。
- 医療
 - ・診療科が分からない。病状を伝えられない。精神ケアをしてくれるところがない。
- 住宅
 - ・保証人がいない。
 - ・敷金礼金や火災保険、1カ月前の退去申告、退去時の立会いなど、日本特有の不動産慣習が難しい。
- 行政
 - ・税金、保険、年金、保育制度等、公的制度が難しい。通知書に何が書いてあるか分からない。
 - ・区役所に通訳者がいない。電話での問い合わせはハードルが高い。
- その他
 - ・学校・保育所との、また親子間での意思疎通が難しい。(子:日本語,親:母語)
 - ・子自身の日本語能力や、親の日本語能力・日本の学校制度への理解の問題による学習の遅れ
 - ・子の母語・母文化教育が進まない。(思考言語が十分に育たないダブルリミテッドの問題)

2. 外国人及び関連機関へのヒアリング調査

(参考) 地域との共生の状況

(増加する外国人住民との付き合い方)

真野地域(長田区)では、騒音やごみ等、当初は増加する外国人住民に対する批判も大きかったが、日頃の挨拶や、ベトナム寺のイベントへの協力等を通じて、共生の感覚が養われてきており、公園の掃除をベトナムの人が手伝ってくれるような関係になっているという。

ほかの地域でも、困りごともある一方で、外国人との交流・共生には前向きな意見は多い。

- ・ 本当に困っている人に出てきてもらって、横のつながりを作っていきたい。
- ・ 近くに住んでいる間柄なので、機会があれば、交流してみたい。
- ・ 災害時などに助け合うには、お互いの考えや視点を共有したい。

しかし、今まで外国人と地域の交流はなく、アプローチ方法が分からない。

また、ごみ出しや自転車ルールを伝えようにも、どのように伝えれば良いか分からない。

- ・ 隣に住んでいる外国人がどういう人なのか知らないし、接点がない。
- ・ 外国人にお声がけしたいけど、いきなり日本語で話しかけてよいのか、どのようにすればよいか分からない。

BE KOBE



United Nations
Educational, Scientific and
Cultural Organization

City of Design
KOBE 

- Member of the UNESCO
- Creative Cities Network
- since 2008

